

回答者

- ・千葉市立美浜打瀬小学校 小玉校長、與儀教頭
- ・千葉市教育委員会学校施設課 堀課長、高橋主査、山本主任主事

Q. オープンスペース型における音の問題に対しての施設整備、カリキュラムや行事を工夫することによる音への対応方法について

A.

- 設計の段階からコンピュータを用いて音の拡散を計算し、天井や一部の壁に吸音材を設置している。
- 教室と教室の間に、ガラスとコンクリートを組み合わせた横 10m程度の遮音壁を設置している。
- カリキュラム等の工夫による音への対応については、特にしていない。

Q. オープンスペースの特性を生かした特徴的な活用方法について

A.

- 教室から離れた場所での授業の実施や授業の見学を、教職員が協力しながら実施している。
- 特性のある児童に対しては、キャスター付きのロッカーや棚などを活用し、空間を仕切って対応することで、全児童が落ち着いて授業が受けられている。

Q. 仕切りのある教室と比較した際の光熱費の増加に対する対策等について

A.

- 仕切りのある教室と比較し約 1.5 倍の光熱費がかかっているが、感染症対策のための換気が必須であり、対策は難しい。
- ソーラーパネル等は設置場所の決定が難しいが、設置を検討している。

Q. 災害時の避難所機能としての特徴について

A.

- wi-fi 環境を整備済みである。また、現在マンホールトイレを整備中で、令和4年度中に整備が完了する予定である。

Q. 屋上にプールを設置したことによるメリットとデメリットについて

A.

- メリットは、ゴミや葉などが飛んで来ないためプールが汚れにくいこと。
- デメリットは、大雨でプールの水がオーバーフローすると、校舎内に水が侵入すること。

Q. フェンス等のない沿道型における、不審者侵入防止対策措置について

A.

- 施設の要所に防犯カメラを3機設置し、職員室のモニターで監視している。
- 保護者向けに名札を配布し、名札を持たない方が来校した際は教職員が声掛けを行っている。

Q. 当初に想定していなかった、完成後に発生した課題の有無について

A.

- 吸音材を固定するためのピンが熱で劣化し、落下することがある。
- 教室と教室の間にあるガラスとコンクリートの遮音壁が、防音効果を高めるため非対称な造りとなっていることで、各教室の後方の広さが均一ではない。